



出張報告届

令和8年1月28日

吹田市議会議長様

会派名 立憲民主党

代表者氏名 西岡 友和

出張者氏名 西岡 友和

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出張先	リファレンス西新宿大京ビル 〒160-0023 東京都新宿区西新宿7丁目21-3
期間	令和8年1月13日から1月14日まで2日間
出張の成果	別紙のとおり
備考	<ul style="list-style-type: none">・2026/1/13(火)13時半～宮本講師【東京】 議員活動を武器にする・2026/1/14(水)10時～宮本講師【東京】 議会・議員の未来

～「議員活動を武器にする」「議会・議員の未来」～

令和8年1月13日・14日

西岡 友和

本研修は、地方議員研究会が主催する二日間の実務研修として、令和8年1月13日・14日に開催された。宮本正一講師による「議員活動を武器にする」および「議会・議員の未来」の二本立てで構成されており、宮本講師は寝屋川市議会議長を経験した地方自治のスペシャリストである。議員としての在り方および議会の役割について深い造詣を有しており、理論にとどまらず現場経験に裏打ちされた視座から提言がなされる点に、本研修の大きな特徴がある。二日間にわたる集中的な研修を通じ、地方議員としての活動の意義と今後の議会の在り方について、改めて深く考える機会を得た。

「議員活動を武器にする」では、議員が持つ権限と手段を最大限に活用するための実践的な思考と行動について、一日目を中心に講義が行われた。宮本講師はまず、多くの地方議員が自らの活動の「武器」として十分に活用しきれていない権限や制度的手段が存在することを指摘した。質問権・調査権・政策提言の場としての議会という構造を正確に理解し、それを市民の利益に直結させる形で行使することが議員としての本来の職責であり、その自覚と実践の有無が議員としての評価を大きく左右するとされた。

一般質問や委員会における質疑のあり方については、「問いの質が議員の質を決める」という観点から詳細な解説がなされた。執行部から単に情報を引き出すだけでなく、議会質疑そのものが政策課題を可視化し、市民に対して議員活動の意義を示すメッセージとなるという指摘は、日々の議会活動を根本から見直す契機となるものであった。形式的な質問ではなく、現場で把握した実態と数字・制度を結びつけた問いを立てることが、議会における影響力の源泉になると強調された。

議員活動を「武器」として機能させるためには、地道な情報収集・現場把握・住民との対話の積み重ねが不可欠であるとされた。こうした日常活動こそが議会における発言の説得力と信頼性を支えるものであり、「現場を知らない議員の言葉は届かない」という宮本講師の言葉は、現場主義を座右の銘としてきた自らの議員活動の方向性を改めて確認させるものであった。

さらに、政策実現に向けた戦略的な行動についても言及があった。議会は単独では動かせないことも多いが、議会内の人間関係の構築、会派を超えた政策連携、行政との建設的な協働関係を積み上げることで、一人の議員でも大きな政策変化をもたらすことができるとされた。信頼の蓄積こそが議員活動の基盤であるという指摘は、長期的な視野をもって活動する重要性を再認識させた。

「議会・議員の未来」では、二日目を主軸として、地方議会が直面する構造的課題と今後の議員・議会の在り方について、宮本講師が長年の経験を踏まえながら展望を示した。

人口減少・財政制約・行政のデジタル化という三つの潮流が同時進行する中で、地方議会は従来の「承認機関」としての役割に留まらず、政策形成過程への能動的な関与が求められるとされた。首長提案を追認するだけでなく、議会独自の調査・提言・条例制定を通じて住民自治の実質を確保することが、今後の議会の存在意義を左右するという問題提起は、地方議員として深く受け止めるべき指摘であった。

議員の「なり手不足」については、単なる処遇の問題にとどまらず、議員活動の内容や成果が市民に十分に伝わっていないことが根本原因の一つであるとされた。議員職の社会的評価が低下し担い手の確保が困難になっている現状に対し、議員自身が活動を積極的に発信し、議会の意義を市民とともに再構築していくことが地方民主主義の持続には不可欠であるという指摘は、SNSを通じた情報発信を継続してきた自らの取り組みが正しい方向性にあることを再確認させるものであった。

議会改革の観点からは、議員同士の政策議論の深化、委員会機能の充実、市民参加の仕組みづくりについて具体的な事例が示された。寝屋川市議会における実践例を交えながらの解説は、理念にとどまらない実務的示唆に富んでいた。特に、市民と議会をつなぐ広聴活動の重要性と、その成果を政策提言に結びつけるプロセスについては、吹田市議会における今後の取り組みに直接応用できる内容であった。

また、AI・デジタル技術の進展が地方行政および議会運営に与える影響についても議論がなされた。行政の効率化が進む一方で、政治的判断や住民との対話という議員固有の役割はむしろ重要性を増すとの見解は、変化する環境の中で議員としての本質的な価値を見失わないための重要な視点を提供するものであった。

二日間の講義を通じて、議員としての権限と活動の意義、そして地方議会が果たすべき役割について、改めて包括的に見直す機会を得た。宮本講師の現場に根ざした言葉は、制度論や理念論を超えた実践的な重みを持つものであり、議長経験者ならではの視座から示された提言はいずれも具体性と説得力を備えていた。

本研修で得た知見を、吹田市議会における議会質問の充実、市民対応の深化、そして議会改革への取り組みに着実に反映させていきたい。「議員活動を武器にする」という言葉を常に意識しながら、一人会派としての現状の中、市民の負託に応える議員活動を一層精力的に展開していく所存である。

以上